

2020年3月30日

2019年度 聖ヶ丘教育福祉専門学校教員研修会報告

聖ヶ丘教育福祉専門学校教員研修委員会

1 職場内研修会の開催

(1) 聖ヶ丘学園におけるカウンセリングの利用

- ① 期日 2019年9月9日(月)
- ② テーマ カウンセリングについて (実務研修)
- ③ 対象 教員及び一部の事務職員
- ④ 講師 本校スクールカウンセラー 高山 智 氏
- ⑤ 連携内容

カウンセリングについての誤解される点は、定義が様々であること。産業・教育・福祉・医療等で様々な角度から採用されている。また、「受容と傾聴」の難しさ、共感していたら教育はできないこと。「発達障害についての合理的配慮、「障害者差別解消法」学校が合理的配慮せよ。学生の利益を考えた時、不適応に対する理解、協力、支援の3本柱は必須である。スクールカウンセラーとは、人の困り感が理解できる。親への支援ができる。担任への支援ができる。学校の方向性を理解できるなどがある。その他守秘義務の問題など、様々な角度からの研修となった。

2 保健衛生校内研修会

第1回

- ① 期日 2019年4月6日 (火)
- ② テーマ 性感染症について～AIDS/HIV、梅毒を中心に～ (実務研修)
- ③ 対象 学生・教職員
- ④ 講師 船員保険病院健康管理センター名誉センター長 庄田昌隆先生
- ⑤ 連携内容

学生は、自分の生活の中での基礎知識として、教職員は、学生対応の参考として役に立った。内容としては、①HIV 感染症・AIDS・梅毒はどんな病気なのか。②その病気の予防の基礎知識について話があった。コンドームを配布しての話には説得力があった。

第2回

- ① 期日 2019年10月～11月の3日間
- ② テーマ AED操作研修会（実務研修）
- ③ 対象 全教職員
- ④ 講師 保健管理委員会委員長 遠藤由美子先生
- ⑤ 連携内容

AEDの設置に伴い、毎年全教職員に対して操作研修を行い、もしもの対応に備えている。本校教員の遠藤由美子氏が資格を有しているために毎年の実施が可能になっている。

第3回

- ① 期日 2019年12月23日（月）
- ② テーマ「食と生活習慣病」－和食はスーパー健康食・その根拠－（実務研修）
- ③ 対象 教職員
- ④ 講師 船員保険病院健康管理センター長 庄田昌隆先生
- ⑤ 連携内容

「体によい食事とは何か」と答えを求めると現代社会においては、混乱するほどの情報量である。

海外では、和食の優れた点が注目されているが、良いとわかっていることでも続けることは難しい。そこで今回は教職員の意識改革を目的として、1. 日本人の食の現状 2. 食と病気の関係でエビデンスがはっきりしているもの 3. 理想的な健康食は和食であることを示すデータ の3本立てで研修を行った。

3 職場外研修会への参加（指導力向上研修）

（1）PTINAの研修会

- ① 期日 2020年1月22日 フィリアホール
- ② テーマ 「バロックと古典派の楽曲解釈」
村井 頌子氏
- ③ 対象 音楽系教員
- ④ 連携内容

17・18世紀のバロック時代・古典派の楽曲を、現代の楽器で演奏するためには、当時の演奏習慣に基づいた奏法を学び、19世紀以降のロマンティック

な解釈にならないように研究する必要がある。

本研修は、参加者から要望が出た楽曲を中心に、当時の演奏解釈やアーティキュレーション、強弱、曲想等の基本的解釈を説明した上で、個々のレッスンを行うことでその奏法の理解を図るものである。今回取り上げられた作曲家はF.クーラン/ラモー/ダンゲルベール/フレスコヴァルディ/J.S.バッハ/モーツァルトであった。

(2) 保育士養成研究所研修会

- ① 期日 2019年7月7日 大妻女子大学
- ② テーマ 「保育実習について～保育実習指導のあり方～」
日野さくら氏 和田 美香氏 和田上 貴昭氏
- ③ 対象 保育内容系教員
- ④ 連携内容

実習指導はやはり、養成教育の要だと思った。資格取得のために、座学で知識を学び、実習で実践的に照合する。このことを往還と言い、今回の研修会で何度も出たワードでもあった。要は、学生に関わる教員同士、授業同士、施設と養成校など連携を取り合って、そこに関わる大人がより良いコミュニケーション、連携を取ることが学生にとってより良い保育者になるために大切なことだと感じた。聖ヶ丘でも行っていると思うが、より往還を意識してやっていきたいと思った。実習生が養成校で、実習記録のとり方についても様々な方法がある事、「指導計画の立案」についても同じく多様な方法があるという事を学んだうえで、実習においては、子どもの姿をとらえた指導案の立案を指導していく必要があるのではないかという話だった。この点について、大いに賛同するが、大変に難しいことである。園と養成校との往還なしには進めることはできない。また、実習の訪問に行く教員一人ひとりが、実習指導、学生、園についても共有しておくべきことがあるのではないかと考えた。今後の課題である。

(3) 同志社講座 2019 春学期

- ① 期日 2019年6月15日 同志社大学
- ② テーマ 「赤ちゃん学入門講座～ヒトの始まりを科学で探る」
上野 有理氏
- ③ 対象 保育内容系教員
- ④ 連携内容

赤ちゃんの「食べる」赤ちゃんの食事は、母乳やミルクから始まる。離乳食は5ヶ月頃、乳汁から始まり一つの食材を繰り返し経験していくことで受けやすくなる。そして、次の食材を繰り返して食べていくことで風味を知って様々に食べるようになっていく。

赤ちゃんは、大好きな人から食事を食べさせてもらうことで口を開けて食べるが、初対面の人が赤ちゃんの口に食べ物をもっていっても食べてくれない。いつも自分のことを丁寧にかかわり信頼関係ができて食べていく。それは、赤ちゃんにとりとても大切である。また、食べさせてもらっていた赤ちゃんは、こぼしながらも手をつかって食べ、そしてスプーンをもって一人で食べるようになって行く。ゆっくりゆっくり時間をかけていく大人の食事になっていくのである。食事は、友達や家族地域社会のとのかかわりの中で楽しく食べることが自分を知り他者を知る。一緒に食べることはコミュニケーションの場

あり、大人の箸の持ち方や噛み方などをまねていく。食べることは楽しみであり、栄養を摂取する大切な場面であり、「全部食べたら外に行っていよいよ」「全部食べたら果物上げる」などの条件の中での食事は重いものになってしまう。ご褒美を上げるとのこと、食べなさい！と強く言われることは食べ物の学びにならない。

『食べる・食べない』は子どもが決めるのである。

(4) ムーブメント教育・療法 実践講座 (関東大会)

① 期日 2019年8月19日、20日 特定非営利活動法人

日本ムーブメント教育・療法協会

② テーマ ムーブメント教育・療法

③ 対象 教育系教員

④ 連携内容

「ムーブメント教育・療法」は、みんなの喜びと健康と幸福感の達成を目標に、からだ（動くこと）、あたま（考えること）、こころ（感じること）の調和のとれた発達を目指す。運動遊びを基軸とする発達や教育の支援法であり、日本の特別支援教育を支えてきた。ムーブメント教育における「発達」や「障害」、楽しい集団遊びの環境が子どもの育成に有効であることが示された。アセスメントとは、一人ひとりの子どもにあった支援の在り方を明らかにするために、子どもについての情報を集めて実態を把握したり、必要な支援を考えたり、支援の成果を振り返ったりすることである。そのアセスメントに基づく発達課題を理解し、支援のためのプログラムを作成するために必要な方法を学んだ。

(5) 子ども青少年局

横浜市幼保小連携事業 教育交流事業実行委員会

① 期日 2019年9月12日 星川公会堂

② テーマ AI時代を人間らしく生きる力をどう育むか 汐見 稔幸氏

③ 介護系教員

④ 連携内容

難しい内容にも関わらずユーモアを交え、わかりやすくお話し、汐見先生の人柄がよく伝わる講演会であった。時代が急速に変化していることにまだ対応していない自身に戸惑いを感じた。この時代を生き抜くために、いかに子供と向き合うか、また家庭や養育者など対人援助職に求められる資質や役割の重要性を改めて感じた。一方で、大切なものはいかなる時代であっても変化しないのだと再認識をした。(シアトルでIT企業に勤める社員が自分の子どもを通わせたい学校の話より) 体験から身につけていくことが一番として、修業年限が限られている中で、多くの体験をさせ、多くの事を考えさせ、問題可決する能力培う授業構成と、本校の学校

生活やカリキュラムは自然な形で構成されていて、素晴らしいと感じた。毎日の積み重ねを嫌がることなく学生が体験できるよう、学校生活を継続できるよう「てまひまをかける」支援していこうと今回の研修に参加して気持ちを新たにした。

(6) 第6回母子栄養懇話会学術集会

- ① 期日 2019年6月1日 跡見学園女子大学 文京キャンパス
- ② テーマ 母から子につなぐ腸内フローラ
- ③ 対象 食と栄養系教員
- ④ 連携内容

腸内細菌が人の健康と多くの病気に関係してきていることは近年、明らかにされてきており、免疫の要である「腸の健康」が人の全身状態を良好に保つためには必要不可欠である。

現代病とされる花粉症、食物アレルギー、アトピー、自閉症、糖尿病、痴呆なども腸内細菌と深い関係がある。その原因として、食物繊維摂取量の減少に加え、衛生環境が良くなり様々な細菌を取り込む機会が激減、食品添加物による腸内細菌の抑制などが考えられる。例えば、カロリーゼロの人工甘味料は砂糖の約600倍もの甘さがあるがカロリーは0kcalであるため、ダイエット・健康志向の菓子・清涼飲料水等に多用されているが、自然界に無い人工甘味料は、腸内細菌の悪玉菌を増加させ、アレルギー疾患を誘発させる、さらには糖尿病発症リスクが高まることが分かっている。一般消費者は目先のカロリーゼロ表示に飛びつき、根本に存在する自らの食生活の原因等を見ず、アレルギーや生活習慣病、肥満の悪循環へと陥る。同様に、マーガリン・ショートニング等に含まれるトランス脂肪酸においてもアレルギー・生活習慣病につながる可以说。

(7) 日本社会福祉学会第67回春季大会

- ① 期日 2019年5月26日 東洋大学 白山キャンパス
- ② テーマ 「ソーシャルワークの価値再考-「個人の尊厳」の根拠をどこに求めるか-」片山善博氏
- ③ 対象 社会福祉系教員
- ④ 連携内容

「尊厳についての哲学的考察」

カントによれば、尊厳の根拠を「人格」にみており、互いが相手を単なる手段としては扱わず常に同時に目的として扱うこと

ができれば目的の国が成り立つ（自律）。しかしながら、このように尊厳を個人に内在する能力と考えることは、多様な存在を認めていくことを主流とする現代においては、そのままの形では通用しない。そこで、ドイツの哲学者クヴァンテなどの承認論による枠組みの中で尊厳を考える論者もいる（尊厳は、相互に尊重するという行為を通して与えられるものである。しかし、尊重することの根拠が問われることとなる）。

また、ヘーゲルは、自他の相互承認によって、私と他者の自立は依存しながら同時に自立すると結論付けたとしている。つまり、相互承認において、自分の自立を確信し、自立がなんであるかを共同体において吟味し、具体化する人間のあり方に尊厳の根拠を見出すことが可能となる。しかしながら、このヘーゲルの「尊厳」概念も人間の相互性に基づき、それを担保する自己意識（自意識）が想定されている。哲学分野においては、レヴィナス等の他者の存在を重視した「尊厳」概念の捉え方が今後、福祉の分野には求められるのではないかと提言であった。

（８）第５８回大学美術教育学会岐阜大会

- ① 期日 ２０１９年９月２１、２２日 岐阜大学
日本教育大学協会全国美術部門・大学美術教育学会
- ② テーマ 「人はアートで育っていく。～美術教育の新しい動向～」
- ③ 対象 図画・造形教員
- ④ 連携内容

シンポジウムには日比野克彦（東京藝術大学美術学部長・岐阜県美術館館長）、会田大也（山口情報芸術センター）、松本和子（フレスコ画家）の３名をパネリストとして招き、各人の携わる芸術機関や地方自治体における、地域性を孕んだアート活動の概要、教育的実践の具体について紹介され、その内容について聴講者からの質疑を受けるパネルディスカッションが行われた。

個人的に関心を引いた取り組みとして、松本和子氏が紹介した京都市立芸術大学が地元行政と連携して行っている「渉成小レジデンス」というアート事業である。地元の公立小学校の空き教室を若手アーティストの制作アトリエとして無償で貸し付け、作家活動の支援を行うと共に学校の生徒との交流を促すというこの事業は、アート活動そのものの活性化という側面以上に学校教育における美術教育の役割を担う試みとして非常に有意義に感じられた。

（９）神奈川県知的障害施設団体連合会

- ① 期日 ２０１９年１２月１６日 神奈川県社会福祉会館
- ② テーマ 神奈川県障害福祉職員実践報告会
令和のはじまり～これからの支援について語ろう
谷内孝行 氏

③ 対象 社会福祉系教員

④ 連携内容

施設実習の事前指導の折に、車いすや白杖体験を実施していたので、この谷口先生のご指摘には虚を突かれた思いであった。では、どうすれば「障害の理解がすすむ」のか。例として、「アイマスクをつけて、卓球をする」「車いすにのってバレーボールをする」。これらを成立するためには、どのような工夫が必要か考えること、が障害の理解を深める、という話であった。

そもそも「障害とはなにか？」ということを演習を行いながら考える機会があった。その時に見たビデオが実に興味深いものであった。さながら「逆転の世界」という題名がつくかと思われるが、障害をもつ人が当たり前の社会で、障害を持たない人がマイナーな社会というのを一人の男性会社員の体験を通して描いたビデオである。タクシーの乗車拒否、手話しか通じない会社受付、付添人がいないと入店できない喫茶店、恋愛や結婚はご法度、介助人がいないと乗れない公共バス、当然できることをしたまでなのに子ども扱いされ頭をなでられ、過剰に称賛される。

そのような様子を見て、障害とは社会（人間関係）の中での理不尽な生きづらさなのだなと改めて思った。今後は、施設実習の事前指導の中で、どのように障害の理解を深める授業ができるのか、改めて考えなおし実施していきたいと思う。

(10) 第10回ポピンズ国際乳幼児教育学シンポジウム

① 期日 2019年6月9日 東京大学 本郷キャンパス

② テーマ 子どもたちが育み合うグローバルコンピテンス～世界とつながっている感覚とは Veronica Boix Mansilla 教授

③ 対象 教育系教員

④ 連携内容

本研修は、Harvard Graduate School of Education の Veronica Boix Mansilla教授を日本に招き、幼児が地球上の一市民として、どのように「グローバル・コンピテンス」を身に着け、他者や、生き物への思いやりを育むことができるか、そして自然や環境問題をどのように身近に感じることができるのかについての講演であった。グローバル・コンピテンス（以下、GC）とは、「国際的な場で必要となる能力・力量」（東京教育研究所）である。経済協力開発機構（OECD）による生徒の学習到達度調査（PISA）の調査項目に2018年から加えられることになった。ポピンズでは、2015年からHarvard Graduate School of EducationのVeronica Boix Mansilla教授と共同研究プロジェクトを開始しており、GCを「グローバル社会を生き抜く力」と捉え幼児が地球上の一市民としてGCを獲得し、他者や、生き物への思いやりを育み、自然や環境問題を身近に感じて成長していく過程と、それを支える保育者のアプローチについての実践研究の発表があった。GCは、大きく分けて、①世界を探求すること（Investigate the world）②他者の視点にたつこと（Take Persp

ective) ③行動すること (Take Action) ④アイデアを伝えあうこと (Communicate Ideas) の4つの面で構成されている。この共同研究プロジェクトの特徴は、「学術的で学際的な理解 (Disciplinary and Interdisciplinary)」であり、これは保育者と子どもたちがともに目指すゴールであるとされている。

(1 1) 新カリキュラム対応介護実習指導研修

- ① 期日 2020年2月11日 ウィリング横浜
- ② テーマ 介護福祉士養成課程見直しの全体像及び介護実習を受け入れる体制づくり
「介護実習」の教育に含むべき事項「依存治療と地域連携」
- ③ 対象 介護系教員
- ④ 連携内容

介護福祉士養成課程の教育内容の見直しが、2019年度より順次導入が想定されている。見直しの主な内容は、「介護過程の実践力の向上」、「多職種協働の実践」「地域における生活支援の実践力の向上」などがある。本研修では、上記の内容を介護実習においてどのように学生に指導していくか、学生を受け入れる施設等の体制づくりや、養成校が取り組むべき事や留意点等について講義され、グループワークを中心に研修が進められた。介護過程の実践力の向上については、学校での指導においても学生の理解力や介護過程への苦手意識等と向き合う中でそれを克服向上させていくことが課題としてあるが、施設においても職員全体の介護過程への理解や意識の低さなどが課題として挙げられていた。多職種協働の実践については、施設では昨今、チームケアは当然のこととして実践されているが、それを学生にどう伝えるか、学ばせるのかグループで討議した。具体的な方法が様々あげられ、学校の机上での学習だけでは学びきれない多職種連携について、現場での学びがいかにより有効であるかということを感じた。地域における生活支援の実践力においては、国や介護保険制度の中でも「地域包括支援システムの構築」があげられている。介護が必要になり、施設に入所していても在宅で生活を続けていても、人は常に地域の一員であるという認識を、介護福祉士自身が持つべきであるという考えの必要性を改めて考えさせられた。参加者の多くは、施設職員がほとんどで、施設で実習指導者として学生指導の経験がある方ばかりであった。グループワークを通して、施設職員は学生を実習生として受け入れるために、試行錯誤してきて、施設ごとに受け入れ体制を工夫していることが分かった。施設の実習環境、受け入れ体制が整っているということは、施設及び組織の職員教育や体制づくりができてきているということにつながる。そしてその結果、そうした整った環境の中で介護福祉士が育っていくのだと改めて痛感した。養成校の役割として、実習施設と養成校が互いに介護福祉士養成において必要な学びを共通理解できるよう連携を図っていくことの重要性をしっかりと認識することができた。

以下、その他の参加研修会名称のみ記す。

- 神奈川県労働局研修会（実務）
- 子育て協会（指導力）
- 全国保育士養成協議会（指導力）
- 造形教育研究大会（指導力）
- 保育教諭養成課程研究会（指導力）
- 日本介後福祉学会（実務）
- 全国教職員研修会（実務・指導力）
- 介護教員継続研修会（指導力）